

180名
会場いっぱい

小中一貫教育校計画・説明会で疑問 不安 批判の声あいつぐ 平成22年度の開校は事実上断念

去る9月17日、3中で教育委員会主催の小中一貫校計画の説明会がおこなわれ、平日の午後3時という時刻にかかわらず、武蔵野小・3中の教員、保護者など会場いっぱいの約180名が参加しました。

時間のほとんどをつかい教育委員会が中間報告の内容を説明しましたが、参加者からは、疑問、不安、批判の声がだされ、教育委員会は「今日のご意見をしっかり受け止めさせていただきます」といわざるをえませんでした。



教育委員会の説明 - - どうして小中一貫校が必要なのか？

教育委員会は「小中一貫校の開設の意義」として7つの点を説明しました。内容を要約してお伝えします。

子どもの個性や能力の一層の伸長

9年間同じ学校で、ずっと同じ教員が（構成は変わるが）子どもを見ていく。そうすれば一人一人の可能性や能力がもっとのびせる。

子どもの豊かな人間性・社会性の育成

9学年の子どもが一緒なので、多学年のかかわりができる。子どもと教師が多くなるのでいろんな人に触れることができる。

学力の向上

小学校の勉強が十分でないまま中学校に上がる子どももあり、それへ対応できる。9年間のきめこまかいカリキュラムをつくるので学力をあげられる。

生活指導上の問題（いじめなど）への迅速・的確な対応

9年間ずっとを先生が見られ、いじめなどの状況を全体でつかめる。小学校6年生、中学校3年生という2つのかたまりを、前期（1～4年）中期（5～7年）後期（8、9年）という3つのかたまりにするので、きめこまかい対応ができるようになる。

中学1年生の不安の解消

中学校にあがることで子どもの意識が高まるということもあるが、羽村の現状では中1で不適応を起こしている子どもがいて、それを解消できる。

創意・工夫を生かした教育活動

縦割り活動など、小さい子と大きい子が一緒になった教育活動ができるようになる。

学校と地域の連携強化

町内会と小学校、中学校がそれぞれつきあうのではなく、一つの学校とのつきあいになるのでより深い連携ができるようになる。

...ということだそうです。皆さんいかがでしょうか？

説明されている内容は必要なことあると思いますが、6・3制でなぜこれらが出来ないのか？教員は6年以内に異動なのにずっと見れるのか？などなど様々な疑問がわき、説得力ある説明にはなっていないと思います。

どんな学校をつくるのか？

次に、上の意義を達成するためにどんな学校にするのかについて、説明がおこなわれました。（内容は、あくまでも検討段階だそうです）

<裏面へ続く>

保護者からの発言「分かりやすい授業、分かりやすい学校制度を」

（文意をそこなわないよう若干整理しました）



二期制のことについてお話しを聞きたいと思い立ち上がりました。うちの子中2ですから、小学校の途中で二期制になりましたね。たいした説明もないまま二期制に入ってしまった、どうなるのかなあと感じていました。

中学に入り、びっくりしました。夏休み明けてから試験ですよ？なんですかこれ。どこが学力の保証ですか。休みのとき勝手に勉強しろ？ようするに「塾に行け」ということじゃありませんか。これが羽村が訴えているすばらしい教育ですか？

羽村は今回、学力テストおこってたでしょう。それはなにかと言ったらこういう二期制のせいではないですか。親の立場としてはとてもそれを感じます。

やっぱりテストの前にそれなりに勉強をしてテストを受けさせることが必要でしょう。このやり方じゃ全然学力は保証されない。小中一貫で4・3・2に区切って、学力を上げる？そんなの上手くいくわけじゃないでしょう。

子どもは小学校6年生のときに一番上に立って、責任を果たして、中1の壁をうけながらも成長していくんです。だからと9年間をすごせばいいってもんじゃないんです。保育園という節目、小学校という節目、中学という節目。節目を越えて子どもは成長するんです。

こんな中途半端な一貫教育なんか必要ないんです。私たち親としては分かりやすい授業、わかりやすい学校制度を期待したいと思います。

発言には会場から拍手があがりました。



2009年10月26日
No.912

発行 羽村民報編集委員会 責任者 野崎 東
電話 579-2132 Fax 579-2106

ご意見お寄せください（080 -
1058 - 9450 鈴木まで）